

さいわい訪問看護ステーション

私達訪問看護師は、利用者様のご自宅を訪問し、その場でその方に合った看護を提供しています。在宅看護への情熱と、24時間対応できる体力・技術を持ったスタッフが揃っています。



訪問看護スタッフ

さいわい介護支援センター

当センターでは、利用者様の介護相談に迅速かつ丁寧に対応しています。利用者様の思いを尊重し、利用者様が望む生活が実現できるようにお手伝いしています。

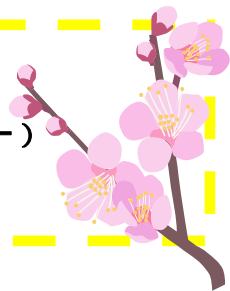


介護支援スタッフ

(さいわい訪問看護ステーション・介護支援センター 管理者：延原 悦子)

ニュースタッフ紹介

- |                  |                                 |
|------------------|---------------------------------|
| 角南 美幸 (看護師 療養病棟) | 山本 孝子 (ケアマネージャー・介護福祉士 介護支援センター) |
| 本野 和子 (看護師 療養病棟) | 宮川麻衣子 (看護師 一般病棟)                |
| 石川 和代 (総務課)      |                                 |



節分

年も改まり、早いもので1月も中旬となりました。少しずつですが春が近づいて来ているようです。もうすぐ2月。2月といえば今頃は「バレンタインデー」ですが、今回のテーマは、「節分」です。

「節分」は季節の移り変わる時という意味があります。この日に豆をまく習慣がありますが、これは平安時代に中国の追儺(ついな)式が日本に伝えられたことが始まりと言われています。「豆まき」には悪魔のような鬼の目「魔目(まめ)」にめがけて豆を投げれば「魔滅(まめ)」すなわち魔が滅するという意味があると考えられています。「鬼は外!」「福は内!」と煎った大豆を家の中や外に、年男・年女・厄年の人または一家の長がまきます。

大豆は豊富なたんぱく質(約30%以上「畑の肉」と呼ばれています。)の他、アミノ酸やビタミン・ミネラルもバランスよく含む優れたもの。また最近では、「イソフラボン」という成分も注目されています。「イソフラボン」は、更年期障害や骨粗鬆症、ガン、動脈硬化の予防などにも有効とのことです。

時代の変化とともに家族と行うこのような習慣も失われつつありますが、こういう時代だからこそ日本の文化を継承することが大切だと思いませんか? 今年も家族揃って豆をまき、恵方巻きを丸かじりしてみませんか?

(管理栄養士 清水 和江)

院内発表会

昨年12月1日、院内にて各部署職員による第5回研究発表会を行いました。日頃から各部署で疑問に思っている事、取り組んでいる事を課題として取り上げ、現状や問題点の抽出、改善点などを発表し合いました。それによって他部署の活動に理解を深め、お互い大いに勉強になる機会となりました。この有意義な研究発表の成果を日常の運営に活用できるようにしたいと思います。来期の発表までに更に向上していく励みとして頑張ります。(坂本 明美)



- 編集後記 - 皆様、新年明けましておめでとうございます。昨年お陰、事件、事故が多く、TVを見るたびに、気がちひりましたが、そんな中でも岡山国体の開催や、黒田慶樹さんと紀宮さまのご結婚など明るい話題もありました。今年は「広報誌さいわい」を通じて地域の皆様へ明るい話題を提供出来るよう、またさらなる医療サービスの向上を目指してスタッフ一同頑張っておりますので、どうぞ本年もよろしくお願い申し上げます。(坂本)

医療法人社団操仁会  
岡山第一病院  
岡山市高屋343  
電話：086-272-4088

さいわい

岡山第一病院広報誌  
第8号  
平成18年1月15日  
発行  
広報委員会

良い医療・福祉の実現に向けて



理事長 亀山 英之

長期の経済不況の中、少子高齢化社会で国民皆保険制度を守るためには皆様と我々医療人が互いに手を取り合って大きな力となり、国に物申さなければなりません。

患者様と高齢者に更なる負担を強いるべきではなく、もっと国民と知恵をしばり議論すべきです。私は医療制度改革を通じて以下のような社会作りに努力したいと思います。

- |                  |                     |
|------------------|---------------------|
| 長寿を心から喜ぶことのできる社会 | 安心して赤ちゃんが産める社会      |
| 子供が元気ですくすくと育つ社会  | 病気の発生をできるだけ減らす社会    |
| 健康で生き生きと働ける社会    | 病気の方に質の良い医療を提供できる社会 |
| 医療提供体制が充実した社会    | 医学の進歩を医療に生かせる社会     |

本年も、元気で健やかな年でありますよう。



明けましておめでとうございます

院長 諸國 眞太郎

今年の干支は丙戌(ひのえ・いぬ)です。「丙」は、一と入と門(囧を表す)との合字であり一は陽気を示し、「陽気が囧の中に入る」、すなわち陰気が起こり、陽気が衰える兆しを表します。また「戌」は茂と同じ意味を持っています。つまり丙戌とは草木が茂る中に陽気が入り、枝葉が茂って日当たりが悪くなるので、剪定して過剰なものを取り除いて日当たり良く明るい年にする必要がありますと考えられます。

今年は、医療制度改革、診療報酬改定、介護保険制度改正などが行われます。少子高齢化の時代に突入しました。私たちも今までと同じ姿勢では社会保障制度の崩壊は避けられないでしょう。小泉政権は財政優先の患者負担が増大するアメリカ式社会保障制度を取り入れようとしています。弊害の多いこのシステムの導入を阻止するためには、医療を提供する側も医療を受ける側も出来るだけ無駄を取り除く姿勢が求められる年になるでしょう。

昨年、新生第一病院として「下肢静脈瘤日帰りセンター」「介護から医療へ」「健康維持は血管から」という従来からの地域医療に加えて専門医療への取り組みを積極的に行い好調なスタートを切ることができました。今年は、さらに医療の質の向上と効率的なサービスの提供を目指しますのでよろしくお願い申し上げます。



理念

患者様の声に耳を傾け、こころ通じ合う医療 皆様の笑顔のために

基本方針

- 地域の皆様の視点に立った安全で質の高い効率的なサービスの提供
- 医療・看護・福祉および健康増進のトータルヘルスケアサービスの提供



# 飛蚊症（ひぶんしょう）について

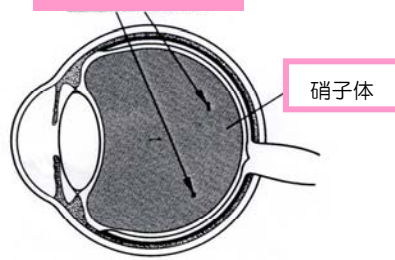
## 飛蚊症とは？

目の前に黒点や塵、時には輪のようなものが動く症状で、目の前に蚊が飛んでいるように見えるので飛蚊症と  
いいます。生理的飛蚊症と後部硝子体剥離が原因の場合  
は、いずれも老化現象の一種で、とくに治療をする必要  
はありません。

## 飛蚊症の経過

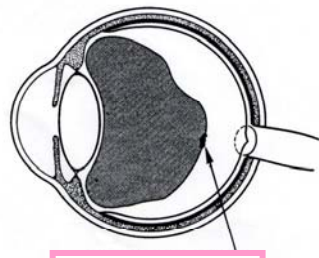
飛蚊症は、1度出ると大抵は生涯治りませんが、これ  
は病気ではありませんので治療法はありませんし、また  
治療をする必要もありません。気にしないようにして放  
置すればよいのです。このような人は割合に多く、60  
歳頃になると、10人に1人は飛蚊症があるといわれま  
す。しかし、黒点の数が増えたり見えにくくなった時に  
は、出血や網膜剥離などが起っている可能性があります  
ので、すぐに診察を受けてください。

濁った硝子体線維



生理的飛蚊症

硝子体

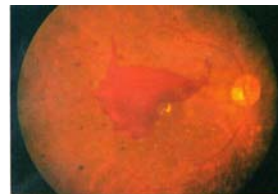


輪が点になった図

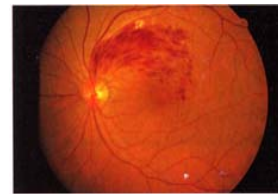
後部硝子体剥離



眼科医師  
亀山 典子



糖尿病網膜症



網膜静脈分枝閉塞症



裂孔原性網膜剥離



## ストレッチでリフレッシュ！

理学療法士  
羽井佐 晋治



### 腕・肩・体側

両手の指先を伸ばし  
て合わせ、前から上  
へできるだけ高くゆ  
っくり上げる（息を  
吸いながら）。



### 背中から腰①

深く腰掛けて、  
息を吐きながら  
上体を前に曲げ  
る。頭も前に下  
げる。



### 背中から腰②

深く腰掛けて、姿勢を  
正しくし、両肘を肩の  
高さに上げ、指を繋  
ぐ。顔と一緒に上体を  
左右にひねる。



### 殿部、腰部、腿

片膝を曲げ、両手で  
支えてゆっくり息  
を吐きながら胸の  
方へ引き寄せる。



### 腕から手首

両手を前に出し、指  
を組み合わせる。手  
の平を返して、息を  
吐きながらゆっ  
くり肘を伸ばす。



## 山陽新聞に掲載されました

2005年12月23日 山陽新聞 朝刊 「岡山医療ガイド 地域を支える病院・医院」掲載

### 岡山医療ガイド

http://iryu.sanyo.oni.co.jp

「健康維持は血管か 國貞太郎院長(左)は強調  
ら」。これが岡山第一病院  
の姿勢だ。  
がん、心  
疾患、脳血  
管疾患が日  
本人の三大  
死因。心疾  
患と脳血管  
疾患は、血  
管の壁が厚  
くなり通りも狭まる動脈  
硬化が背景にある。だか  
ら、血管内皮の具合を調べ  
たり、血圧測定で血管の  
硬さをチェック。動脈硬  
化が起こりやすい頸動脈  
に超音波を当てる検査も  
行う。  
今年四月、脚の血管の  
必要が  
ある。諸  
ごでだ  
さや痛  
みを伴

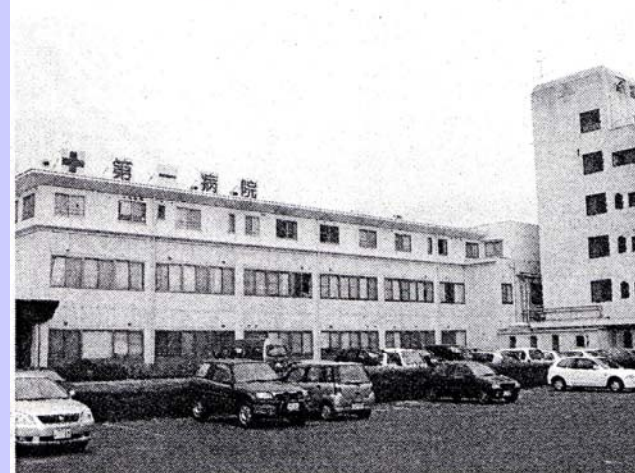
### 岡山第一病院

(岡山市高屋)



諸國眞太郎院長

### 地域を支える 病院 医院



血管のチェックを重視する岡山第一病院

「生活の質向上を」と  
ンターを開設。十一月 諸國院長。  
末までに、手術百十二 同病院がある地域は  
例とレーザー治療四十 動き盛り世代も多く、  
三例を実施した。「血 住民の生活習慣病対策  
管が浮き出て見え美容 に力を入れる。診るポ  
面の悩みになる。日帰 イントは内臓脂肪の蓄  
り治療も可能で、患者 積。高血圧や高脂血な  
ない敵”を探す。  
診療科は外科、消化器  
科、整形外科、眼科、呼  
吸器科、放射線科、皮膚  
科、リハビリテーション  
科、循環器科、アレルギー  
科、臨床検査科。これ  
らに血管検査室が加わ  
る。二〇〇四年度の外来  
診療数は延べ三万四千五  
百。医師数十一人(非常  
勤含む)、病床数六十。  
高度経済成長期の一  
六七年に開設。かつては  
労災事故や頻発する交通  
事故での救急医療がメ  
ンだった歴史がある。  
(随時掲載)

山陽新聞社転載許可済み